

令和7年(2025年)

4

No.822

The Religion News

宗教新聞

https://www.religion-news.net

発行所 宗教新聞社

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-2

電話 03-3353-2940(代)

FAX 03-5363-5182

郵便振替口座 00130-9-22704

©宗教新聞社 2025

購読料 (税込)	1部 半年 年間	500円 3,000円(〒共) 6,000円(〒共)
-------------	----------------	----------------------------------



水分神事で今宮神社の塩谷崇之宮司(左)から水麻を受け取る秩父神社の大澤孝禰宜(右)＝4月4日、秩父市の今宮神社

秩父今宮神社で龍神祭

八大龍王神の神徳と水の恵みに感謝

埼玉県秩父市

4月4日、「龍神祭」が今宮神社(塩谷崇之宮司、埼玉県秩父市)の大ケヤキ「龍神木」の前で斎行された。この大ケヤキは幹回り約9メートル、樹齢約1300年とされ、埼玉県天然記念物に指定されている。当日は地元のみならず、他県からも多くの参列者が訪れた。(2面に関連記事)

龍神祭は、八大龍王神の神徳と水の恵みに感謝する祭り。境内にある龍神池には、秩父の霊峰・武甲山からの伏流水が湧き出しており、武甲山の龍神様がこの地に降臨すると信仰されている。

午前10時半、前日までの雨が上がり、清々しい晴天のもと、祭事が厳かに始まった。修祓(しゅばつ)、祭主一拜、献饌(けんせん)に続き、塩谷崇之宮司により祝詞(のりこと)が奏上された。その後、導師・中村慶海直参大先達、瀧田顕浩大先達(ともに本山派修験の山伏)の導きのもと、参列者一同が心を合わせて般若心経を奉誦。続いて、地元中学生による「豊栄舞」、アムリタ朝子氏および柚葉弥衣(ゆら・やよい)氏による舞踏と歌唱が奉奏された。



塩谷宮司は参列者を前に、「今年の初めから大火災があり、世界では大きな地震も起きた。そのような災いは人間の力で、塩谷宮司は参列者を前に、どうしようもなく、神仏のお力をお借りし、物事が良き方向へ向かうよう願いを込めた」と挨拶した。来賓として北堀篤神事は、修祓、祭主一拜、献饌に続き、水麻授受の儀へと進んだ。神部代表である黄色装束の作家老(長老的役職、浅見弘氏)が水麻を秩父神社の大澤孝禰宜に渡し、さらに塩谷宮司に手渡された後、本殿に奉斎された。

塩谷宮司が水分の祝詞を、大澤禰宜が水乞いの祝詞をそれぞれ奏上し、五穀豊穰を祈念。玉串拝礼の後、直会となり、御神酒と大根が参列者に振る舞われた。神事の終わりには、水麻が再び今宮神社宮司から秩父神社禰宜へ、さらに作家老へと授与された。

その後秩父神社の一行は、龍神の分霊を宿した水麻を携えて秩父神社へと戻っていった。

秩父市長は、「世界では紛争が絶えず、小さな子供たちが犠牲になっている。そうしたことがなくなるよう、世界の平和を祈る」と述べた。

午後には、総鎮守である秩父神社から、神職、伶人(雅楽を演奏する人)、白装束で鉾を担ぐ農民に扮した氏子たちの「神部(かんべ)」からなる御神幸行列が、神霊を宿すとされる「水麻(みずぬま)」を携えて今宮神社に到着。社殿では、龍神池の水神を秩父神社へ授与する「水分(みくまり)神事」が斎行された。

神事は、修祓、祭主一拜、献饌に続き、水麻授受の儀へと進んだ。神部代表である黄色装束の作家老(長老的役職、浅見弘氏)が水麻を秩父神社の大澤孝禰宜に渡し、さらに塩谷宮司に手渡された後、本殿に奉斎された。

塩谷宮司が水分の祝詞を、大澤禰宜が水乞いの祝詞をそれぞれ奏上し、五穀豊穰を祈念。玉串拝礼の後、直会となり、御神酒と大根が参列者に振る舞われた。神事の終わりには、水麻が再び今宮神社宮司から秩父神社禰宜へ、さらに作家老へと授与された。

その後秩父神社の一行は、龍神の分霊を宿した水麻を携えて秩父神社へと戻っていった。

天城
関東では桜の季節も終盤である。今月初めには天地子の自宅近くにある市営の公園に、大勢の花見客が訪れていた。季節の花を楽しめるイベントや小動物と触れ合う体験会も開かれ、親子連れが長蛇の列を作っていた▼コロナ禍で学校行事が減少したせいもあるが、最近では様々な「体験活動」が評価されているように思う。「体験格差」という言葉まで聞かれる。ただ、体験と言っても特別なものではなく、例えば「夜空にかがやく星を見た」「チョウやトンボ、バッタをつかまえた」など自然を感じる時間や「かくれんぼや缶けりをした」といった日常の遊びも含まれる。「家族と大掃除をした」「誕生日をお祝いした」といったことでもいい▼研究によると、こうした体験は子供たちの自己肯定感や道徳観に良い影響を与えたり、認知・非認知能力を高め、今問題になっている子供の近視を予防する効果も期待できるという▼道徳教育では「人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める」とある。自然に触れる体験を取り戻したい。